

病院建設ラッシュ継続！医療の海外展開が本格化！

# 病院計画画総覧

2015年版

発行 **産業タイムズ社**

べ1856㎡の増築と約1000㎡の一部解体も含まれる。

### 広島赤十字・原爆病院、15年度に新棟完成

広島赤十字・原爆病院（広島市中区千田町1-9-6、Tel.082-241-3111）は、13年度から新棟の建設工事を進めており、15年8月31日に竣工する。

新棟の建設地は、病院敷地2万2963㎡内の広島電鉄側駐車場用地。規模は、免震構造を採用したSRC一部S造り11階建て延べ2万4046㎡。新棟は本館と接続する。このほか、附属棟（廃棄物庫）も建設。

一方、既存の本館と6号館は新棟に機能を移管した後の空きスペースなど約4000㎡を改修する予定である。3号館と5号館は新棟の建設後に解体し、駐車場として整備する。

再整備後の各棟のフロア構成は、新棟が1階に救急、レストラン、コンビニ、2階に薬剤、病理、血液腫瘍センター、3階に手術室、ICU、4階に中央材料、SPDセンター、霊安室など、5～8階に病棟、9階に講堂、厨房、職員食堂、10～11階に機会室や備蓄倉庫、屋上にヘリポートを設ける。

本館は、1階に外来、受付など、2階に外来、中央処置室、3階に健診センター、内視鏡、4階に管理部門、5～7階に病棟、8階に無菌病棟を設ける。

6号館は、1階に放射線、2階に生理検査、中央採血室など、3階に透析、リハビリ、4階に管理部門、5～6階に病棟、7～8階に無菌病棟を設ける。

救急や高度医療に関しては、ICU、HCU、救急病床を新棟の3階に集約するほか、手術室は6室から10室に拡充する。また、救急や手術後の管理を受け入れる病床も14床から20床に拡充する。このほか、血液腫瘍センターでは45床から55床に、無菌室も54床から60床に拡充する。なお、先行して13年10月に立体駐車場と新リニアック棟が完成している。

新病院の体制は、診療26科、病床545床（一般535床、健診部10床）、救急病床（ICU、HCU）20床、RI病床1床、感染対応病床4床となる。

庄原赤十字病院（広島県庄原市）は、12年5月に完了した第1期工事（1期棟）に続き、北棟の解体跡地で第2期（2期棟）の工事を進め、13年4月に完成、さらに、駐車場などの周辺整備を行い、14年春に病院再整備事

業を完了した。

### 高松赤十字病院、中央診療棟がオープン

高松赤十字病院（香川県高松市番町4-1-3、Tel.087-831-7101）は、12年11月から建設していた中央診療棟が14年5月（一部14年7月）から供用を開始した。また、中央診療棟の完成後、東館の建て替えを検討する。

同病院は1907年6月に開設した。10階建ての本館、7階建ての東館、8階建ての南館の3棟で構成され、病床数は589床（一般581床、結核8床）で、診療科目は25科目（血内、腎内、内・代内、消内、循内、神内、呼内、小、消外、胸・乳外、小外、脳外、心外、整、皮、泌、腎外、産婦、眼、耳、口外、精、リハ、麻、放）を標榜している。今回、東館の老朽化が著しいため、中央診療棟の建設を計画した。

中央診療棟は、免震構造のRC一部S造り地下1階地上5階建て延べ7186㎡（敷地面積1万5435㎡、建築面積1666㎡）の規模となった。地下1階は放射線部門と機械室を導入、地上1階には放射線部門と救急外来を設置する。2階は採血室、採尿室、生理検査部門、内視鏡部門などを設け、3階には検体検査部門を配置。4階は救急病棟と人間ドック部門を設け、5階は電気室。

同棟の病床数は10床（すべて救急病棟）で、診療科目は現行のまま。医療機器に関しては、放射線機器を強化する方針で、アンギオ室を1室から2室に増やし、アンギオ装置を新規に1台導入した。また、CT装置やMRI装置も更新した。総事業費は35億円。なお、同棟の完成後、既存の東館は機能を移設した後に、建て替えを検討しているという。東館は、地下1階地上7階建てで、中央診療棟に機能を移設したため、地下の理容室と、地上2階の脳波・筋電図室のみとなっている。

### 徳島赤十字病院、14年度から新棟に着工

徳島赤十字病院（徳島県小松島市小松島町字井利ノ口103、Tel.0885-32-2555）は、12年度に大幅な黒字を計上したことから、新棟の建設も含めた増改築事業を、構想から計画へと移行する。13年7月に「増改築

### 3. 主要医療グループ

#### (1) VHJ研究会とVHJ機構

##### 医療の質向上と経営の発展へ活動展開

VHJ研究会（東京都千代田区一番町9-702、Tel.03-5213-0145）とNPO法人VHJ機構（同）は、医療に対するニーズが多様化し、国民の生活の質向上にとって民間病院の果たすべき役割はますます重要となるなか、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて、保健・福祉の向上に寄与することを目的に設立された。

1993年にVHJ（Voluntary hospitals of Japan）研究会（麻生泰会長）が発足、04年2月にはNPO法人VHJ機構が発足した。VHJ機構では06年11月から会員病

院のDPCデータを閲覧・分析できる優良のベンチマーク事業を開始した。

VHJ研究会の事務はVHJ機構に委託している。医療改革を進めるための提言や新臨床研修制度の見直しに関する意見表明などを行っている。

同機構では、臨床研修指導医養成講座の開催、DPC（Diagnosis Procedure Combination：急性期入院医療の診断群別評価）ベンチマーク研修会などDPCを活用した評価事業、調査研究事業と発表会の開催などに取り組み、14年度に実施した主な事業は、「VHJ-BM入門研修」「初期研修医・指導医交流会」「臨床研修指導医養成講座」。

12年12月現在のVHJ機構の会員は、表のように45病院（45団体）。

##### VHJ機構会員一覧（◎VHJ研究会兼、○VHJ研究会のみ）

名称	住所	電話	概要
◎ (医) 漢仁会 手稲漢仁会病院	札幌市手稲区前田1条12-1-40	011-681-8111	550床、33科
◎ (社医) 母恋 日鋼記念病院	北海道室蘭市新富町1-5-13	0143-24-1331	479床、26科
◎ (財) 竹田総合病院	福島県会津若松市山鹿町3-27	0242-27-5511	939床、24科
◎ (株) 日立製作所 日立総合病院	茨城県日立市城南町2-1-1	0294-23-1111	561床、18科
○ (株) 日立製作所 ひたちなか総合病院	茨城県ひたちなか市石川町20-1	029-354-5111	288床、29科
○ (医) 社団誠警会 千葉メディカルセンター	千葉市中央区南町1-11-12	043-261-5111	319床、19科
○ 千葉県立循環器病センター	千葉県市原市鶴舞575	0436-88-3111	220床、14科
◎ (医) 鉄蕉会 亀田総合病院	千葉県鴨川市東町929	04-7099-2211	865床、31科
◎ (社医) 河北医療財団 河北総合病院	東京都杉並区阿佐谷北1-7-3	03-3339-2121	315床、15科
○ (医) 社団永生会 永生病院	東京都八王子市栢田町583-15	042-661-4108	428床、6科
○ (社医) JMA 海老名総合病院	神奈川県海老名市河原口1320	046-233-1311	469床、21科
◎ (医) 立川総合病院	新潟県長岡市神田町3-2-11	0258-33-3111	481床、22科
◎ (社医) 薫仙会 恵寿総合病院	石川県七尾市富岡町94	0767-52-3211	451床、20科
◎ (社医) 財団慈泉会 相澤病院	長野県松本市本庄2-5-1	0263-33-8600	502床、33科
◎ (福) 聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院	浜松市中区住吉2-12-12	053-474-2222	744床、35科
○ (医) 宏潤会 大同病院	名古屋市南区白水町9	052-611-6261	404床、25科
◎ トヨタ自動車(株) トヨタ記念病院	愛知県豊田市平和町1-1	0565-28-0100	513床、26科
○ (社医) 杏嶺会 一宮西病院	愛知県一宮市開明字宇平1	0586-48-0077	312床、24科
◎ (社医) 厚生会 木沢記念病院	岐阜県美濃加茂市古井町下古井590	0574-25-2181	452床、26科
◎ (社医) 蘇西厚生会 松波総合病院	岐阜県岐阜県鳥島郡笠松町田代185-1	058-388-0111	432床、23科
◎ (医) 洛和会 音羽病院	京都市山科区名神京都東インター横	075-593-4111	588床、37科
◎ (社医) 岡本病院 第二岡本総合病院	京都府宇治市神明石塚54-14	0774-44-4511	419床、21科
◎ (医) 仙養会 北摂総合病院	大阪府高槻市北柳川町6-24	072-696-2121	217床、23科
○ パナソニック健保組合 松下記念病院	大阪府守口市外島町5-55	06-6992-1231	359床、20科
◎ 淀川キリスト教病院	大阪市東淀川区淡路2-9-26	06-6322-2250	607床、25科
○ (医) 橘会 東住吉森本病院	大阪市東住吉区鷹合3-2-66	06-6606-0010	329床、10科

### 3. 陽子線がん治療施設

#### 陽子線がん治療装置、低価格化で導入が加速

陽子線がん治療装置は、2014年10月現在、世界で40台ほどがあり、このうち10台が日本で稼働し、世界最多を誇る。陽子線治療装置の世界市場は、15年以降、年間6～10台の出荷、売上高は500億円とも1000億円とも言われており、アベノミクス第三の矢「成長戦略」の一つの輸出製品、技術として期待もされている。

陽子線治療は、1946年に米国のロバート・ウィルソン博士ががん治療への応用を提唱し、1950年代に大型加速器の開発が進み、ローレンス・バークレー研究所が1955年に臨床研究を開始、1961年にハーバード・サイクロトロン研究所とマサチューセッツ総合病院で治療が開始された。

日本では、放射線医学総合研究所が1979年に、筑波大学が1983年に陽子線による臨床研究を開始、その後、08年8月に先進医療の承認を得た。1998年に国立がんセンター東病院で国内初の陽子線治療が開始され、01年に高度先進医療の承認となった。装置は住友重機械工業製で、国内初の回転ガントリー方式を採用している。

このほか、国内の陽子線治療装置（稼働開始、製造メーカー）は、以下のとおり。

- ▽兵庫県立粒子線医療センター（01年、三菱電機、炭素線治療も併設）
- ▽筑波大学附属病院（01年9月、日立製作所）
- ▽静岡県立がんセンター（03年10月、三菱電機）
- ▽一般財団法人 脳神経疾患研究所附属南東北がん陽子線治療センター（08年、三菱電機）
- ▽メディポリス医学研究財団がん粒子線治療センター（11年1月、三菱電機）
- ▽福井県立病院陽子線がん治療センター（11年3月、三菱電機）
- ▽名古屋陽子線治療センター（13年3月、日立製作所）
- ▽北海道大学附属病院（14年4月、日立製作所）
- ▽社会医療法人 慈泉会 相澤病院（14年10月、住友

重機械工業）

総額230億円を投じた名古屋陽子線治療センターは、13年2月に稼働を開始し、14年1月には、陽子線がん治療施設として国内初のスポットスキニング照射設備を追加装備して、治療を開始した。

診断や術後観察などに用いるPET-CTなどの併設の有無により一概に比較できないが、08年10月に稼働を開始した南東北がん陽子線治療センターの事業費は98億円で、同じく三菱電機製の装置を導入する、一般財団法人 津山慈風会 津山中央病院では、16年3月に稼働を目指しているがん陽子線治療センター（仮称）の事業費として50億円を見込んでおり、価格低下が進んでいる。

三菱電機では、（医）伯鳳会が大阪市で16年4月に開設する大阪陽子線クリニック（仮称）にも装置を納入する。

住友重機械工業の装置を導入した相澤病院では、12年秋の治療装置公開の際、事業費を50億円程度に抑制できたこと、設備が小型化したことで陽子線がん治療センターを開設できたと説明した。

社会医療法人 明陽会は、17年春の治療開始を目指す、（仮称）陽子線治療センターに、IBA社（ベルギー）の陽子線治療装置を導入する。総事業費は50億円、うち建設費として10億円を見込む。

社会医療法人 厚生会は、計画中の新病院（仮称）厚生会 総合医療センターに陽子線治療装置を導入したい考えであるが、建築費の高騰で入札が成立せず、また、建設予定地で土壤汚染が見つかったこともあり、14年夏から新病院の計画を一時中断しているため、装置のメーカーを決めるといった作業は、建設計画の再開後。

#### 海外展開へ新技術確立や提携

稼働している10カ所の陽子線治療装置に、さらに、民間施設で導入が増えることで、日本での豊富な臨床結果が得られ、さらに、国際的な優位性が高まる。

兵庫県と㈱ひょうご粒子線メディカルサポートは、

## 島根県

### 5 疾病や救急医療の強化、医療従事者の確保など

島根県は、2013年度から17年度までの5カ年を期間とする新たな保健医療計画を策定した。島根県では、深刻な医師不足（地域偏在）、開業医の高齢化・後継者不足の状況が従来にも増し緊急に対応が求められる課題となっている。医師・看護師などの医療従事者確保の取組をさらに拡充するとともに、限られた医療資源を最大限に有効活用するために、医療連携体制の構築が求められている。

がん医療では、がん予防、がんの診断・治療の充実、がん医療連携体制の構築、緩和ケアの強化、がん登録の推進、がん患者の支援に取り組む。中でも、がん治療については、医療機関の機能分担と連携により、手術療法、化学療法、放射線療法が適切に実施されるよう、各二次医療圏単位で、圏域を越えた連携も含めた、がん診療体制の構築を目指す。また、「がん診療連携拠点病院」などの役割を強化するため、「がん診療ネットワーク協議会」を通じ、専門医などのがん医療従事者の人材育成を図るとともに、病院内におけるチーム医療体制の構築に取り組む。

脳卒中医療では、脳卒中の発症予防や早期発見に取り組む。また、脳卒中の診断・治療水準の向上に向けた取り組みとして、脳卒中発症後3時間以内に脳卒中の診断・治療ができるよう、脳卒中救急医療体制の確立を進める。また、脳卒中発症後の在宅におけるリハビリテーションを推進するため、患者が所有し、患者、家族、医療機関、介護サービス事業所間で療養に関する情報を共有する「在宅療養ノート」の利用促進にも取り組む。

急性心筋梗塞医療では、発症予防や早期発見の推進、病院前救護体制の確立、診断と治療水準の向上に取り組む。治療水準の向上として、急性心筋梗塞の確定診断および治療が早期に実施できるよう、救急医療体制の確立のほか、発症後のリハビリテーションについては、県内で急性期医療を担う医療機関と心大血管疾患リハビリテーション実施医療機関との連携を推進していく。

糖尿病医療では、急性心筋梗塞と同じく、発症予防や早期発見の推進、境界型・軽症糖尿病を含めた糖尿病の診断・治療・生活指導が適切に実施されるような体制づくりなど、診断と治療水準の向上に取り組む。

精神疾患医療では、保健サービスや、かかりつけ医との連携により、精神科医を受診できる機能構築のほか、状態に応じて必要な医療が提供され、保健、福祉などと連携して地域生活や社会生活を支える機能体制づくりを推進する。また、各二次医療圏において24時間365日対応できる精神科救急体制のさらなる充実・確保を進める。認知症については、予防とケアに対する正しい知識の普及・啓発を行っていくとともに、知識を習得した人に「認知症サポーター」として活躍してもらうよう努める。また、地域包括支援センターを中心に、かかりつけ医、認知症サポート医、専門医療機関、介護サービスに関わる事業所・施設、認知症に関わる地域の資源などが連携する仕組みの構築に向けた支援を行うなどする。

小児医療では、小児救急を中心に各対策に取り組む。高度・特殊な小児救急医療・小児医療については、地域の実情に応じて、二次医療圏を越えた医療連携体制の構築により、県全体として対応できる体制を整備する。このほか、島根大学医学部などの医育機関と連携し、小児科医の確保に努める。

周産期医療では、周産期医療のネットワークとして、「総合周産期母子医療センター」のある「県立中央病院」ならびに「特定機能病院」である「島根大学医学部附属病院」は、県全域のリスクの高い妊娠に対する医療や高度な新生児医療などの必要な患者を受け入れ、高度な医療を提供する。また、「地域周産期母子医療センター」のある「松江赤十字病院」「益田赤十字病院」は、県東部、県西部地域において比較的高度な周産期医療を提供する。これらの周産期医療の中核となる4病院間の連携強化を図り、周産期医療のネットワーク構築を進める。このほか、医療機関の連携と役割分担の強化、産婦人科医などの医療従事者の確保、医師と助産師間の連携強化、搬送体制の強化などを推進する。

救急医療では、現状の救急体制の充実を図るとともに、二次救急では、連携体制と医療機能の向上、三次救急との広域的な医療連携体制の強化に取り組む。また、ドクターヘリや防災ヘリコプターを活用した救急

**筑波メディカルセンター病院：医療関連施設**

茨城県

【所在地】〒305-8558 茨城県つくば市天久保 1-3-1 Tel.029-851-3511  
 【開設者】(公財) 筑波メディカルセンター 【院長】軸屋智昭 【事務長】—  
 【診療科目】総合診療、小、乳など24科 【病床数】413床(一般410、感染3)  
 【計画地点/規模】つくば市のメディカルセンター病院近接/S造り2階建て延べ1696㎡  
 【事業費/着工/完成】—/14年4月/15年7月  
 【設計/施工】岡田新一設計設計事務所/鹿島

【計画内容】病院近接に10年3月にUR都市機構から取得した5784㎡の用地を活用して医療関連複合施設を新設する。規模はS造り2階建て延べ1696㎡。内部は、1階に地域住民のための相談支援施設を新たに開設し、茨城県赤十字血液センター供給出張所が入居を予定している。2階には本館4階部分にあった自転車、ストレッチなどを行うつくば総合健診センターの健康増進機能(ACT)を拡充し、移転する計画。このほか、敷地の約半分を駐車場として活用する予定。最終事業として健康増進施設「ACT」移転跡(915㎡)を健診のための内視鏡センターに改修するとともに、新たに超音波検査室、婦人科検査室、オプション検査室を増設する計画で、15年4月の着工を予定している。

茨城県

**筑波メディカルセンター病院：増築**

茨城県

【所在地】〒305-8558 茨城県つくば市天久保 1-3-1 Tel.029-851-3511  
 【開設者】(公財) 筑波メディカルセンター 【院長】軸屋智昭 【事務長】—  
 【診療科目】総合診療、小、乳など24科 【病床数】413床(一般410、感染3)  
 【計画地点/規模】所在地の近接地/S造り一部5階建て延べ延べ9291㎡  
 【事業費/着工/完成】全体で36億円/13年1月/16年2月  
 【設計/施工】岡田新一設計設計事務所/鹿島

【計画内容】病棟増築による療養環境の改善とつくば総合健診センターの機能拡充、地域住民のための相談支援施設と(仮称)茨城県赤十字血液センターつくば供給出張所を備える複合施設新築を目的とした第6次整備事業を実施しているもの。病棟の規模は、S造り一部5階建て延べ延べ9291㎡で病院敷地内の東側駐車場跡地に建設する。アメニティーやプライバシーを配慮した療養環境の改善を図るため、旧病棟から病床を移設する。移設病床数やフロアの用途や詳細は今後決定する。また、地域医療連携課、医療福祉相談課、医療福祉相談課、入退院サービスステーション、患者家族相談支援センターなどの医療連携機能を集約し、効率化、サービス向上を図る。

**総合守谷第一病院：改修**

茨城県

【所在地】〒302-0102 茨城県守谷市松前台 1-17 Tel.0297-45-5111  
 【開設者】(医) 社団光仁会 【院長】城賀本満登 【事務長】—  
 【診療科目】内、小、外科など20科目 【病床数】203床  
 【計画地点/規模】所在地に同じ/—  
 【事業費/着工/完成】—/2014年9月/2015年3月  
 【設計/施工】清水建設/清水建設

【計画内容】同病院は、地域の中核病院として機能しており、急性期医療の充実や療養環境の改善を図るべく増築と改修を実施している。1期工事は、既存棟屋を延ばす増築工事であり、14年6月28日に竣工した。規模は、RC造り6階建て延べ約3300㎡。内部は1階が人間ドッグ、検査、2階がリハビリテーション、外来、3～6階が病棟となり、病床は最大でも4人部屋とし、同時に個室を増やしており、1ベッドあたりの面積をほぼ倍増させ、療養環境を改善している。2期工事で既存の病棟、外来部分の改修を行う。増築により空いたスペースに第2MRI室を建設し、3テスラのMRIを導入し、既存の1.5テスラの機器と2台体制とすることで、検査部門の更なる充実を図る。

**志村大宮病院：改築**

茨城県

【所在地】〒319-2261 茨城県常陸大宮市上町 313 Tel.0295-53-1111  
 【開設者】(医) 博仁会 【院長】鈴木 邦彦 【事務長】—  
 【診療科目】内、整、皮、耳、小、リハなど15科 【病床数】169床(一般121、療養48)  
 【計画地点/規模】所在地の隣接地/RC造り4階建て延べ3780㎡  
 【事業費/着工/完成】—/2013年末/2014年度ごろ  
 【設計/施工】佐藤総合計画/清水建設

【計画内容】施設は本館と別棟の病棟で構成しているが本館部分は築後50年以上経って老朽化しており、県から9床の増床が認可されたことに伴い、改築を実施する。施設規模はRC造り4階建て延べ3780㎡。1階が外来部門、2～4階が病棟を予定している。これに先立ち清水建設の施工で、2階建て延べ1300㎡規模の仮設病棟が13年末に竣工し、1月から外来診療および30床程度の病床を移設した。本館棟は、15年3月の竣工、同4月の供用開始を見込んでいる。



書名 .....病院計画総覧 2015年版  
体裁・頁数 .....B5判 オフセット刷り 796頁  
定価 .....25,000円+税、〒共